



## ここには「本当のサッカー文化」がある

さいたま市は日本屈指のサッカーが盛んな「サッカーのまち」として全国的に知られ、男女を問わず、キッズからシニア世代までサッカーを楽しめる環境があり、市内のそこかしこで、それぞれのスタイルでサッカーに興じる人たちの姿を見かけることができる。

また、浦和レッズと大宮アルディージャのホームタウンでもある「サッカーのまち」は、両クラブと強い絆で結ばれている。スタジアム内外で繰り広げられるサポーターたちの熱烈な応援風景も、日常的なまちの一コマだ。

サッカーは、「文化」としてこの地に根付いているのだ。



さいたま市サッカーの  
まちづくり推進協議会長

さいたま市長 **清水 勇人**

さいたまのサッカーは、1908年埼玉県師範学校(現在の埼玉大学)に蹴球部が創設されたことを起源としています。

師範学校の卒業生が子どもたちに教えたサッカーはまちに広まり、その後、高校サッカーの強豪校がいくつもあるまちとしてその名を馳せ、現在ではJリーグの浦和レッズと大宮アルディージャのホームタウンとして、全国に知られています。

100年を超える歴史と伝統のあるサッカーを核とした取り組みを更に充実・強化し発信することで、さいたまのブランド化を加速させ、スポーツをテーマとしたまちづくりを推進し、スポーツ文化を育ててまいります。

このパンフレットを通じ、さいたまの誇りを感じていただければ幸いです。

